

調査・研究報告書の要約

書名	インド有力サプライヤー企業便覧 - 西インド編 -				
発行機関名	社団法人 日本機械工業連合会				
発行年月日	2010年3月	頁数	92頁	判型	A4

[目次]

インドの素材生産量

インドの産業分布図

日本企業地域分布図

I 鍛造

II 機械加工

III プラスチック成形

IV 板金・プレス加工

V 鋳造

VI 産業機械（熱交換器、変圧器、モーター、コンプレッサー、工場内クレーン、
プリント基板）

[要約]

- ・インドにおいては報告書に記載のように大きく分けて4つの工業地域があり、今回は、日系企業では荏原製作所（産業用ポンプ）、スタンレー電気（自動車照明）、ブリヂストン（タイヤ）、現地企業では TATA MOTORS（自動車）、Bajaj Auto（二輪車）、欧米企業では Daimler・Chrysler（自動車）、Fiat（自動車）などがある西部地域の2つの州（グジャラート州、マハラシュトラ州）を中心に部品産業の実態調査を実施した。
- ・その調査内容は一昨年の北部地域、昨年実施した南部地域での調査を基本的に踏襲し、鍛造、機械加工、板金・プレス、プラスチック成形、鋳造、産業機械の6つの業種をカバーし合計60社の基本調査を行い、その内15社については詳細調査を実施した。調査は全て現地訪問し、夫々の会社の経営者若しくは幹部社員からの直接ヒアリングによる方式であるが、一部売上や資本金、顧客などの情報については非公開の企業もあった。

- ・報告書の中に記載されているが、かなりの企業が ISO9000,9001,TS16949 などの認証を取得しており、品質管理などへの関心の高さが伺われた。また、前述のように調査対象企業の中には自動車関連の部品を製造する企業が数多くあったが、将来的にはその他の業種への参入を計画している企業も多く、併せて輸出による業容の拡大を検討している企業も少なからず見られ、日本企業としても取引機会はかなり多いのではないかと判断される。

- ・詳細調査の中で分かった事として、工場内はとてもきれいに整理、整頓されており、工場内に 5S やカイゼンといった標語を掲げている会社を多く見かけた。

工場の現業部門で働く所謂ワーカーと呼ばれる人達は職業訓練学校（ITI=Indian Technology Institute）の卒業生や 10~12 年級と呼ばれる学歴を持つ人達が多く、給与面では企業によってばらつきはあるものの、低いところでは月間 4~5,000 ルピー（日本円 10,000~12,000 円）くらいでアセアン諸国などと比較するとまだ低賃金である。但し、技術者を含めたスタッフの給与は最近かなり上昇率が高く、これから中国同様コストアップは大きな課題となるだろう。

なお、具体的な調査は、株式会社インド・ビジネス・センターに委託して実施した。

KEIRIN



この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。

<http://ringring-keirin.jp>